

昭和28年、結婚してから数年間の思い出

中央町・山田広子さんからの聞き取り

私が山田開進堂を経営していた夫(山田芳夫)と結婚したのは、昭和28年3月21日です。

当時、昭和27年に火事で焼失した後同年再建した店兼住宅は、店を建設した夫の兄・山田憲一さん(お義兄さん・お義姉さん)夫婦と同居のように暮らしていました。お義兄さんの事務所と店、奥の部屋と2階を2家族が住み分けていました。

覚えているのは、結婚した翌日から1週間ほど毎朝、朝日の井戸まで水汲みをしに行ったことです。朝日の井戸は、家から片道600メートルほど離れた古い常呂橋の弁天側のたもとにあり、バケツを前後にかけて天秤を担ぎ、着物に雪げたで通いました。朝日の井戸は、家から川沿いの道路に出て、旧篠田歯医者さんの脇を通り、橋のたもとに山田商店から旧常呂橋を渡った右手にありました。簡単な屋根と囲いがあり、皆さん同じように天秤とバケツで汲みにていました。けっこうな距離ですが、20歳そこそこで若かったからできたことだと思えます。また、お嫁に来たときから言われたことはハイハイとする私の気性も幸いしたと思えます。

水は手押しポンプがあり、生活用の水はその水を使い、朝日の井戸水はお茶を飲んだりするために使っていました。井戸水は、大きな水がめのために使っていました。

水で覚えているのは、常呂川で洗濯をすることです。当時、常呂川の水はきれいで、福田家具店の裏から川へ降りる細い道があり、近所の人たちで誘い合って洗濯をしたものです。時期によつては飲み水にしている人もいました。

常呂町は昭和29年7月30日に簡易水道が完成して水道が普及しますが、昭和33年生まれの子男のおむつも川で洗っていた記憶があります。

お嫁に来た時、ラジオドラマで大流行していた「君の名は」で思い出すことがあります。お風呂は内風呂ではなく、道路を挟んだ斜め向かいにあった木幡風呂屋さんに入りに行っていました。お義姉さんがこのドラマが大好きで、ドラマが終わるまでお風呂には行きませんでした。当時、「君の名は」の放送中は風呂屋の女湯が空っぽになったというのは本当だと思います。ちなみに当時はラジオ全盛期で、店では一日中ラジオをつけっぱなしでした。

もう一つ人気のあったことかと思いついてあるのは東京大相撲の興行です。お義兄さんが大の相撲好きで、黒川武さんと勸進元となり、昭和30年7月7日に東京大相撲の興行を小高神社の境内で行いました。私も観に行きましたが、それよりも長男がお相撲さん(明武谷)に抱っこしてもらったことを良く覚えていて、写真も撮りました。

お義兄さん夫婦と同居し、かまどが一つだったこともあり、家事をお義姉さんと分担し、部屋や廊下など毎日の拭き掃除は私の仕事でした。2世帯分、店や事務所、住居部分が広くて体力があつてできたと思います。

台所も一つで、煮炊きは薪ストーブ、大きな鍋がありました。思い出すのは、お義兄さんの会社が国鉄保線区の仕事を請け負っていた頃、保線区の人たちが持ってきたたくさんの力二を大きな鍋で茹でたことです。

燃料は後に石炭ストーブに変わり、店でも石炭ストーブでした。家の裏には小屋が2つあり、片方が薪や石炭用で、もう片方の大きな小屋は、お義兄さんが経営していた建設会社・山田組用です。お義兄さんは昭和35年に亡くなり、小屋の中のモノを片付けた後で、いっとき郵便局に貸していたこともあります。

当時使っていた水がめは今、息子が野菜畑の水やり用に使っています。以前、夫が元気だった頃、夫が世話していたその野菜畑で私はジャガイモを植えたりしていました。嫁入り前の娘時代、実家の農業を手伝っていた頃を思い出して詠んだ俳句があります。その句は札幌の大会に出して賞をいただきました。

句は、「イモを植う わが足幅を 物差しに」

実家のジャガイモ畑は150間(約270メートル)先まであり、馬で畝を切り、手で肥料を蒔き、それから種芋を植えるのですが、その間隔がちよと足の幅だったことからこの句を思いつきました。農家の娘だったので農作業の手伝いは当たり前でしたが、1回だけのこととして、秋の豆の脱穀作業を終えた後に、親に言いつけられてベタゾリを曳いた馬を引いて家に帰ったことがあります。馬の手綱をどんな風に引いたのか記憶にありませんが、ちゃんと帰ったことは今も覚えています。馬が賢かったんですね。父親が馬そりで網走へ豆を売りに行った帰りに岐阜の親戚でお酒を飲んだときも馬そりで寝ていた父親がちゃんと帰ってきたと聞いたことがあるのでそう思います。馬は5〜6飼っていて、その飼料として燕麦もたくさん蒔き、馬草用の畑もありました。

注：「雪げた」

冬用の下駄で、つま先に防寒と雪や泥で足先が汚れないようにカバー(爪皮)つまかわが付いていて、齒に滑り止めの金具が取り付けられています。山田さんは、季節ごとに履く下駄が数足あったと語ってくれました。

注：「朝日の井戸」 木村フジエさんの「私の歩んだ道」から抜粋

常呂の水は塩分があつておいしくなく、共同井戸(注：朝日の井戸)が1ヶ所、中台外科医院、漁協信用部(注：現本通り会館)の通りから山手に向かった橋(注：旧常呂橋)の弁天側にありまして、飲み水は本通り、大通りの町内の方はほとんどその井戸から天秤で担いだものです。

*注：時代は昭和20年頃

注：ラジオドラマ「君の名は」ウィキペディアから抜粋

昭和27年4月10日、菊田一夫作NHK連続ラジオドラマ『君の名は』の放送が開始された。放送は翌年の4月10日まで続いた。大人気ドラマとなり、木曜夜8時半から9時の放送時間はこの番組を聞く為に、銭湯の女湯から客が消えたという神話が生まれたのもこの頃である。

注：物置を郵便局に貸したこと

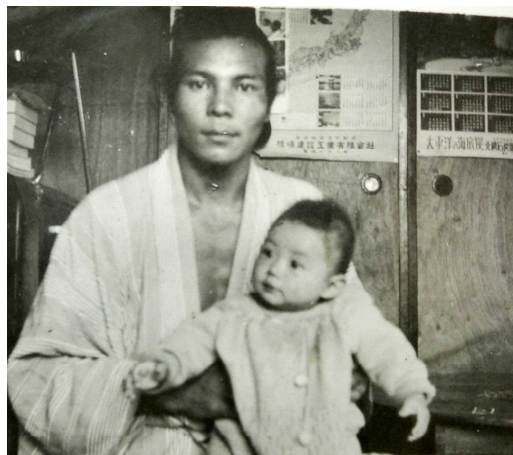
昭和36年7月23日落成の2階建ての郵便局を昭和48年に同所で建て直す時に貸したことを指します。旧局舎の2階は電話交換用。

新局舎は平屋で、昭和48年11月19日落成。現在は総合在宅ケアセンターとして使用しています。

注：東京大相撲の興行

「当直日誌」には「東京大相撲、鏡里・大内山一行、小高神社で興業 事務に支障のない者、見学を許す」の記述があります。当時、鏡里は横綱、大内山は大関。

なお、その時の番付表は、山田開進堂が所蔵。



明武谷に抱っこされている長男



大内山などの色紙